

資料1 教育実習後レポートと参考表

① 教育実習後レポートフォーマット

2013 年度 「教育実習指導」

教育実習後レポート（湘南ひらつかキャンパス）

提出日：2013 年 6 月 28 日（金）（ 月 日：7 月 1 日以降の実習終了者の場合）

（学部・研究科・科目等履修生）

（学科・専攻）

学籍番号 ・ 年次・氏名

1. 教育実習について感想や意見を述べて下さい。

①学んだこと

②よくできたと思うこと

③もっと力をつける必要があると思うこと

④実習前の準備として大切だと思うこと

⑤実習終了後、大学の担当教員に相談したいこと

2. 卒業後の進路について

① 教職志望の場合 (資格教育課程支援室に教員募集の依頼があった場合の連絡のために)

・(公立、私立、どちらでも)

・() 都道府県・() 都道府県

・(小学校・中学校・高等学校)

・(専任・臨時任用教員・非常勤講師)

② 教職以外の場合。現時点で決まっていること、わかっている (考えている) こと

3. 2013年7月に受験する教員採用試験について

都道府県 (政令指定都市名)	学校種	教科	受験番号
	小・中・高		
	小・中・高		
	小・中・高		

4. 教職課程に対する要望やアイデア

② 「もっと力をつける必要があると思うこと

(資料1①の質問用紙 問1-③の回答, 湘南ひらつかキャンパスの教育実習生39名)

～国際経営学科～

A 言葉をしっかり選んで話すことを意識しなければならなかった。最初の方の授業では、生徒にとって傷付くかもしれない一言を言ってしまった時があった。今後このようなことのないよう、相手の立場になって考え、あたたかみのある人間として生きていきたい。授業面では、ただ通り一辺に教えるのではなく、あえて生徒たちが考えつかないことを考えさせてみるなど、思考力をつけさせる授業を意識していきたい。

B もっと力をつける必要があると考えているのは、授業力と生徒指導力の主な2面です。授業に対してはまだ甘すぎる所が多くあり、ただの雑学の授業で終わってしまっているの、その部分が今の自分の授業の課題と考えています。

2つ目の生徒指導については、まだ生徒を注意する際に、根本の原因でこれはダメだときちんと注意出来ていないので、生徒を良く観察した上で適切に怒る事が大切だと考えています。

C ・教材研究をもっと深く行い、生徒に分かりやすく伝える能力を身に付ける。
・臨機応変に授業できるように、準備をしっかり行う。

D 状況に応じて臨機応変に対応できる能力。もっと生徒がことがらを把握できるようにするコミュニケーション能力です。慣れてくれば身につくことかもしれませんが、その場に応じた正しい判断をできるようにするため、生徒のことを把握する必要がある。そのために日頃から、人との接し方を意識し、常に振

り返り反省していきたいと思う。

～情報科学科～

A 授業だけでなく、HRでも全体に気を配ることが必要であると思った。また、連絡事項が多い時は生徒が混乱しないように伝えるため、情報を整理する力が大切であると感じた。

B 教える力が必要だと思いました。板書計画に時間をかけても授業をするとあれこれ課題がでてくる。生徒の立場に立って授業計画を立てられていない。もっと予想する力も必要。

C 授業準備を一生懸命やったが、指導教諭に準備不足だとよく言われた。だからもっと細かい部分まで教材研究をやるように心掛けたい。また、もっと深い数学の知識を身につける必要があると思った。高校で数学を教えるにあたって、より深い部分を学び数学的な背景を頭の中に入れた上で教科指導することで、より分かりやすく教えることが出来ると思う。

D ・最初の導入でもっとわかりやすくユーモアのある発言ができるくらいの知識。
・臨機応変に対応できる力。
・説得力がある発言ができるくらいの学力

E ・黒板の使い方、計画。
・もっとわかりやすい噛み砕いた説明。
・数学の知識・理解。
・1日1回の授業や数学・物事に対する追求心（特に今後つけていかないといけないもの！）
・記憶力（クラスと授業を教えていた生徒

が全てで200人ぐらいいたが、そんなに覚えられなかった。)

・敬語の使い方。

F 第1に生徒ともっと話しをする。(ホームルームをするにも、授業を程よく進めるにも、生徒との信頼関係が大切だとこの実習で強く思ったので。) 第2に生徒が興味をもってくれるような授業展開や指導力、またもっと生徒との一体感のある授業。

G 授業については、自身が一方的に授業を行っている事が多かったので、もっと生徒と向き合い、生徒の様子を見つつ、生徒に語りかけるように授業を行いたいです。なので、生徒に説明する時を大事にし、生徒に伝える事が大切なので、生徒目線を心がけます。2つ目は、図やグラフの丁寧さです。実習では、とても描く機会が多かったのですが、図が小さすぎたり、放物線が上手に描けなかったりと、苦労しました。図やグラフの丁寧さは経験をつむ事が大事と担当の先生に教わったので、たくさん描いて経験をつみます。3つ目は時間配分です。私は実習中「わかりやすく」教える事を心がけていたので、かなり丁寧にやりましたが、授業の進み具合が遅くなってしまいました。ですから、丁寧に行う事も大事ですが、今後は授業スピードに注意し、教科書の内容を全てやるのではなく、削ったり、内容をまとめる事、板書を多くしすぎない事を注意します。生徒間については、もっと早く話しかける事を心がけたいと思います。また、なるべく教室にいる時間を増やし、生徒と話す時間を多くする事を心がけたいです。特に実習では2週間目から話せるようになったので、1週間目から話せるような積極性を持ちたいです。

H 授業をする中で、単調な授業となることがあったので声で強調するなど生徒が退屈と

感じないように工夫しなければならないと思います、研究授業では意識して改善していきました。説明する際、分かりやすくしようと考えたとき、自分の話す時間が長くなってしまったので、授業の主役は生徒で、考え方など発表し、全員で共有していく授業の流れにしていかなければならないと感じました。

I もっと力をつける必要があると思ったことは全体的に多くありましたが、特に授業での生徒の様子をみる必要があると思いました。板書や演習など、生徒にどれだけ時間を渡せばいいか。また私が喋りながら板書させても良い部分はどこかなど、生徒の様子を考えずに授業を作ってしまった部分がありました。4クラス分授業をさせて頂きましたが、1番目のクラスより2番目・3番目・・・と改めることはできたと思いますが、1番目のクラスでも考えればできたのではないかと思います。

J クラス運営はやはり難しかった。「生徒主体」を意識する一方でそうも言ってもらえない場面がいくつもあった。

「集団で動く」ということをどのように意識づけるかが今後の課題であるが、それには教員同士が連携し、一環性のある指導が重要であることを学んだ。「正しいことを正しいと言える集団」となることを目指し、教員として成長していきたい。

K 生徒が大学入試の過去問題をもってきたり、授業中に質問にきたりするので、その場ですぐ答えられるように、数学に関する専門知識をもっとつける必要があると思いました。

L 教材研究

机間巡視

言葉の言い間違いをなくす

証明をうまくまとめる
生徒を注目させる
板書の仕方

M 授業運びや生徒の顔を見て臨機応変に内容をかえられる指導力です。50分の授業でやるつもりだった内容が最後までいかなかったり、逆に時間が余り、中途半端になってしまうなど授業の構成がうまくいかないことがありました。また、板書案で用意した内容にとられすぎていたところも反省点です。臨機応変に生徒の様子を見ながら復習することやプラス α なことをやってみたり、雑談など、先生方が当然のこのようにやっていて、自分も見習いたいと思いました。

N やはり生徒にとって分かりやすい授業を実行する分、どうしてもユーモアがある展開に欠けると感じたので、1コマの中で生徒を引きつけつつもしっかりおさえる所はやるという授業作りが必要であると感じた。

O 板書するときのスペースの使い方をもっと練習をしなければいけないと思った。生徒は自分の板書をそっくり写すので、定義などの説明をより具体的に強調して伝えなければいけないと思った。

～化学科～

A 研究授業で先生方から頂いた感想で、授業中に生徒たちに考えさせたり、人に教えたりして頭を使わせることをした方が良いということや、時間を効率的に使う必要があるという話をきいた。この2点についてはこれからきちんと考えていく必要があると思った。また生徒に対して、自ら話しかけてコミュニケーションをとっていかないといけないとある先生から言われたので、これについてももっと力をつけたい。

B 授業で、計算など、説明をもっと丁寧に行う必要がある。イメージさせるために、モデル化を行うときに、モデル化を行う上で生徒たちが混乱しないか、しっかり考える必要がある。

C 特に前半の授業で、生徒の様子をあまり確認しないまま授業を進めるが多かったので、もっと生徒や学級の様子を見る余裕を持てるような自信をつけたいと思う。また授業中とそうでない時の話し方や接し方の切り替えがはっきりしていないこともあったので、もっとメリハリを意識する必要もあると思う。研究授業でトラブルが起きた班に対してうまく対処できなかったため、それらのトラブルに対応できるような冷静さや判断力も身につけたい。

D 説明する際に、一方通行になりがちでした。説明だけにならないように、生徒の顔を見ながら話すべきでした。

話す時に体が黒板を向きながらにならないように心掛けること。生徒に今は話を聞く時、ノートを写す時というようにメリハリをつけさせる授業が行えていなかったため改善したいと思います。

E 教材研究に費やす時間を多くし、生徒のどんな質問にも答えられるようにし、何度も授業を行い、人に対し、ものを教えることに慣れる必要があると感じた。

F 実験の授業を行うときに、課題提示から、考察、まとめまでを1時間内に終わらせることです。実験の授業などでは、特に時間をまたいでしまうと、前回やった内容を生徒がはっきり覚えていないことが多いので、なるべく1時間内でまとめるようにと指摘されました。スムーズに授業を行うために、予備実験をしっかり行って、生徒の目線で問題になり

そうなところへの対処と授業の構成をしっかりたてて、授業に臨みたいと思いました。

G 知識を与えることだけが教育ではないと実習を通して学んだ。生徒が自発的に考え、課題を解決する術を培うことができる授業を行うことが重要であると感じた。そこで今後は学習した内容がどのように活用できるかを考えさせるような授業づくりができるよう、多くの授業運営の方法を学ぶとともに、様々な分野に対して教養を深め、授業づくりをする上での発想の助けにしたい。

H 指導力！授業や生徒指導において、一番大切な事、伝えたい事を指導する際に、伝える力が弱く、生徒にその重要性がなかなか伝わらなかった。伝えるときの間や緩急などの指導力が不足していると思った。

I 理科は“発見授業”である。私が行った授業では、生徒の学習活動が不足していた。授業の展開を考え直す必要があると思うし、そのためには、もっともっと教材研究が必要だと思う。また授業のレベルが高いというご指導をいただいた。クラスの標準レベルに合わせた授業のつくり方を見つけることが大切だと思う。

J 導入でもっと生徒の興味を引き、授業に惹き込む力がほしいと思った。そして考えたことを生徒に発表させる時、その発言をうまく活かしながら授業を進め、すべての発言を回収しながらまとめて落とししていくことができるようになりたい。

K 授業にメリハリをつけること。

私は声が小さいので、大きな声で話そうとして、いつも大きな声で授業をしてしまい、生徒が授業を受けていて辛そうだと感じた。意識して、声の大きさ、高さを変えて、生徒

が集中しやすい授業にしたい。

L ・生徒に教える、伝えることが難しい。

“授業で勝負できる力”

・自分の基本的な能力ー学力, 経験など・・・自分がもっとものを知っていれば、かしこければ生徒達にも伝わりやすい有意義な授業にできる。

・自分がもっと仕事（雑務・教材研究）がはやくできれば、生徒と関わる時間をもっととれる。

・社会人として などたくさんありました。

M ・教材研究

・授業の導入研究

・先生方との密なコミュニケーション

N 教科指導、生徒指導、どちらも出来ないことばかりですが、特に生徒指導の難しさを改めて重く受け止めました。行動を変えさせるためには、心に働き掛けなければなりません。人の心を動かすのは大変難しいことです。生徒と共感的に理解し合えるよう、考えを深め、経験を積み重ねていきます。

～生物科学科～

A 時間の使い方をもっと上手にしなければならなかったと感じた。今回私が痛感したのは、自分の作業ペースの遅さである。人よりも、物事を進めるのに時間がかかるのでいつの間にか遅れをとり、そしてできなくて周りの人に「やる気がない」と思われてしまう傾向があると知った。また、先生に対する報告、連絡、相談等をする気遣いも足りなく、何度も先生方に、特に指導教諭の方に不信感を持たせてしまったと思う。社会人としての常識、コミュニケーション能力のなさを痛感し、以後気を付けていかなくてはならないと思った。

B 身近に感じられるような話や授業内容が科学技術に応用されている例を紹介したのは良かったが、それについての知識が足りないため、説明が十分にできていないところがあった。せつかくいい例や関連話をしていたのに、説明不足がもったいないというアドバイスを受けて、できるだけ教材研究には時間をかけて、しっかり準備をして、授業をしていきたいと思った。

C 当たり前のことですが、基礎的な学力や知識が不足していると感じました。

あとは生徒全員が考えるような質問の仕方、授業展開をもっと考えなければいけないと感じました。

D 理科の知識をつけることが必要。

自分のクラス以外の生徒たちの名前も覚えるべきだと思う。

「教科教育法Ⅰ」から真剣に取り組んで本当に良かったと感じたので、他の学生も真剣に取り組んで欲しいと思う。

E 生徒にとって、教師の一言一言が大切なのだなあとと思った。朝、帰りででのSHRでのアドリブや、各学級での授業内での言いまわしの方法をもっと改善する。また、授業内でやるべきことをやるためには、よけいな雑学のしゃべりをなくすべきだと思う。アドリブの取捨選択が必要である。

F 生物の知識を全体的に深くすること。自分の専門分野である遺伝学及び分子生物学に関係する生物の範囲については問題無いのだが、その他の興味が無い範囲（生態系や進化）については分からない点や用語があるので勉強する必要がある。

③「実習前の準備として大切だと思うこと」

(資料1①の質問用紙 問1-④の回答、湘南ひらつかキャンパスの教育実習生39名)

～国際経営学科～

A 授業の教材研究が一番大切だと思った。部活の試合等で忙しく、しっかり準備できずに実習を迎えてしまい、睡眠時間が毎日3～4時間になってしまった。社会科の場合は、事象に関する背景知識を十分に調べ、地理や歴史といった他の科目との関連付けを意識し、深く教材研究を行う必要がある。

B 実習前に魅力あるような授業を準備してることが大切だと思います。魅力があるような授業が出来ていれば、実習中に授業を作る時間を減らす事が出来るので、生徒と直接関わる時間を増やす事が出来ます。もう一つとしては、担当の先生に、生徒指導はどこまで指導していいかや、行事に対してどのように取り組めばいいか聞けると良いと思います。

C 教材研究が一番重要と考えてやり込んでおくことが大切だと思う。やってやりすぎはないと改めて感じた。

D 教材研究と授業の流れは実習に入る前に指導教諭と連絡を取って準備すれば、実習中に生徒とのコミュニケーションを多くとれるなど、学校でしかできないことを経験できると思います。

～情報科学科～

A 実習生ではあるが、ただ免許を取る過程だと思わず、教師として学校に通勤するのだと覚悟をし、実習に臨む準備をすることが大切だと思う。

B 教材研究と自分のキャラ作り

C 分かりやすい授業をするためにも教える内容のみならず大学レベルのより深い部分をしっかりと勉強しておくことが大切だと思う。

D ・教材研究
・指導案を書くための知識
・礼儀、作法
・やる気と向上心を持つこと

E ・実習で自分がどのくらいの授業をやるのか範囲の確認と教材研究
・教材研究(知識よりもわかりやすさを研究すべき)で大切なことは、いかにわかりやすい説明ができるかを追求すること。
・担当の先生の授業方針、進め方、教え方の確認。
・担当の先生に自分のことを理解してもらうことと担当の先生を理解すること。
・資料がかなり出るので整理できるものとかがあった方が良い。
・一生懸命準備することと、それを生徒に伝えること。
・発声とか?

F 教材研究、これは本当に大切。あと学校側との連携。

G 実習前に指導する授業の単元を教えてくれるので、前もってその単元の勉強をしておく、わからない事がないようにしておく必要があると思います。また板書計画を行っておくと、先生の板書との違いがわかり、とても勉強になります。さらに、私は実習3日目から授業を行ったので、早いうちに勉強や板書計画をしておいて良かったです。他に担当の先生がくれたのですが、写真の入った名簿は

とても役に立ちました。クラスの生徒の顔と名前を前もって一致させる事ができました。その結果コミュニケーションを取る時に役立ちました。

H 実習に行く前に教材研究をしていったので、授業実習では困らずに進めることができました。用語カードを作成して、生徒達に反復して覚えさせたりなど授業で活用することができました。授業の流れとしてノートにまとめ、ポイントになる部分や生徒達が間違えやすい部分を調べたりし、実践できたので教材研究を事前にして勉強していく必要があると実感しました。

I ・授業範囲の確認。1回の授業でどこまで進むか。

確認不足で、事前に教材研究ができた部分とできない部分ができてしまった。また、やらなくても良い部分の教材研究に時間を取られてしまった。

・副教材の確認

副教材を借して頂いたのが授業数日前になってしまい、副教材の内容と合わせて授業を考えることがほとんどないことがありました。

J ・教科について十分に理解していること
 ・生徒がどのポイントに対して、どのような疑問を抱くか把握していること
 ・実習先に対する感謝の気持ち
 ・基本的な礼儀
 ・板書技術・コミュニケーション能力

K 生徒が中学校でどこまで学習しているか、証明や計算問題のどこで間違いやすいのか、授業を行う際にどういった様に発問をするのか、さらに予想される生徒の反応まで教材研究として事前しておくことが大切だと思います。

L 教材研究。板書計画。説明の仕方

M 教材研究です。私は実習前にまずは範囲の問題を解き、授業の流れや、単元と単元のつながり、間違えやすい箇所などを確認しました。それと、私は自己紹介を職員室や担当クラス、授業クラス、部活動の生徒たち向けに分けて準備していきました。

N 実習先の都合で実習3日前に2年生担当から1年生担当に変わった。そのため教材を研究する時間が充分にとれなかった。結果、小学校までで習ったことを一生懸命探して、そこから新しい内容につなげるというのを実習中に整理したので大変だった。このことから自分にあてられた授業範囲があるなら、しっかり予習や準備をして臨むことが大切だと感じた。

O 実習へ行く学校の学力を良く知っておくこと。自分の母校でも当時とレベルが違っていることがあると、計画とズレが生じるから。

～化学科～

A 私の場合は実習の初日から授業があった。そのため実習までにいつから授業があるのか、どのくらい授業を担当するのかを確認しておき、どのように授業を進めるかや授業用のプリントなどを作ったり考えたりしておくことが必要だと思う。

実習でどんなことをするのかかわからず不安になることもあると思うので、同じ実習に行く友達と情報交換することも大切になると思う。

B 教材研究。実習中は他の仕事もあるので、実習前から教材研究を行うことで実習中に他の仕事ができる。

C どの教科においても教材研究は大切だと思う。私は進度や学年の異なる学級で1日3時間程度授業を行ったが、授業を始めた最初の週は授業展開を考えるのにかなりの時間を使った。実際に授業を行うときは生徒の反応なども考慮しなければならないので、板書計画だけでもあらかじめ作っておくと、実習期間中の時間をより効率よく使えると思う。

D やはり教材研究だと思います。教科書の内容をいかに分かりやすく、くだけた表現に出来るかで生徒の反応も変わります。説明に例を用いる際は、しっかりと関連付けていることや難しい言葉を使わないなど、適した表現をするために、言葉の意味をしっかりと調べておくことも重要だと思います。後はクラスの生徒の氏名や部活等を覚えていけば、すぐに距離が縮まると思います。

E 教材研究と生徒の名前を覚えること。教材研究は本当に授業ができるくらい行って良いと思えました。

F ・なるべく早めに実習授業での担当範囲を聞いて、授業の構成や指導案の準備をしておいた方がいいです！！
 ・あと生徒の名簿などももらえたら、もらって名前を覚えておくと、初日から楽しくすごせると思います。
 ・かんたんにできるおもしろ実験の知識があるといいです！！

G 実習生を受け入れる担当教員の方は非常に多忙のため、実習を行う上で必要となる情報を十分に伝えられない場合がある。もしくは伝えられた情報が場合によって変化するといった状況が多く発生する。そこで事前に実習先の学校で教育実習の経験がある先輩から情報を集める。実習校で同時期に実習を行う実

習生と連絡先を交換して、情報を共有する等行う必要があると感じた。

H 最低限授業範囲の板書計画は作成しておいたほうがいい。計画を立てる際に授業内容の予習や下調べもできるので、実習が始まってから指導案をつくるのに苦労しない。

I 実習は大変だ！！とっておくにこしたことはないと思う。私は先輩方の話を聞いて、不安でたまらなかったけど、覚悟しておいて良かった。2日寝なかった日もあるし、教材研究はやってもやっても終わりが無い。また、メモをとるくせをつけておいた方が良いと思う。

J 自分の授業範囲のみならず他学年とのつながりや小学校との関わりを確認しておくことが大切。また、その単元を通して何を一番身に付けさせるのかを理解しておくこと。

K 学ぶことが多いので、人の話をちゃんと聞けるようにすること。教材研究はもちろん、伝え方を何パターンも考えておくこと。健康に過ごせるように体調管理。

L ・人として、あたり前のことがあたり前にできるように、気付けるようにすること。
 ・何をしたいのか、自分の中で、明確な目標を持つこと。何を学びたいのか。
 自分が指導教員の先生に、「授業は計画、準備で決まる」「やりすぎる準備はない」といわれました。授業だけでなく、何でもいから、想定できること全てにおいて、とにかく準備が大切なんだと感じました。

M ・教材研究
 ・クラスの雰囲気把握 (授業担当クラスそれぞれ)

N 生徒の学力を保障するべく準備することです。生徒にとっては、1度限りの授業です。中途半端は許されません。教材研究を十分に行い、ベストな状態で臨むことです。現場では誰一人、実習生を歓迎などしていません。招かれざる客なのです。授業だって、通常の先生が行ったほうが、わかりやすいでしょう、悪くすれば、実習後に同じ範囲をやり直すことにもなりかねません。もし、そうってしまったら、生徒の貴重な時間を無駄にすることになります。このような事態にならぬよう、必死で準備を間に合わせなければなりません。教壇に立ったら、実習生といえども、教員なのです。

～生物科学科～

A とにかく教材研究。また、生徒が興味を持つ様な豆知識、雑学の蓄えは多ければ多い程いいので、色んな映画を見たり本を読んだりしておくとういと思う。あとは時事問題も面白いので今のうちからニュースや新聞に目を通す習慣をつけておく事。ささいな事でもいいから、疑問に思った事は調べる。オススメは、ある単語の語源や教科書に出てくる人物の周りの人間関係等。これらは授業とつなげやすいと思います。面白い事実がいっぱい隠れている事に気付こうとしてほしい。

B 教科教育法などで行う模擬授業の経験や友人の模擬授業などを見ながら自分なりにどういう授業をしたいかというテーマや目標を見つけること。後はその目標に近づくように教材研究を行うこと。板書の練習やいろいろなことに興味を持ち、いろいろな分野の知識を身につけること。

C 実習校に行ってから授業範囲を聞くのでは遅過ぎるので、最低でも実習が始まる1ヶ月

前に指導教諭の先生に連絡し、教科書も自分で購入して予習しておくべきだと思います。

D 教員採用試験の勉強をしっかりとしておくこと、自分の教科の勉強をしておくこと。理科と数学がどこまで進んでいるか知っておくとやりやすい。

E 実習先の各学校が使用している教科書をかみならず読み込んでおくこと。どこの部分があたりまえのように全学年分用意する。中学校は、実験がほぼ毎時間あるので模擬授業をして各クラス分用意しておくこと。

F 最も大切だと思うことは、あらかじめ渡された教科書や参考書は全て目を通しておくことです。理科(生物)の授業は、過去に学習した内容と深く関係しているため、自分が教える予定の範囲から外れている内容にも触れておく必要がある。以上の事を怠ると授業展開に面白みが無くなってしまい、生徒の理解力の育成が困難になると考えられる。

参考表 湘南ひらつかキャンパス教職課程 免許取得者及び就職者数(1992～2012年度)

2013.11.1

卒業年度	経営学部				理学部				合計		
	国際経営学科		情報科学科		化学科		生物科学科		卒業者数	就職者数	%
	卒業者数	就職者数	卒業者数	就職者数	卒業者数	就職者数	卒業者数	就職者数			
1992 (H4)	8	2	2	1	6	0	0	0	16	3	19%
1993 (H5)	7	2	2	0	9	1	5	0	23	3	13%
1994 (H6)	4	1	7	4	15	5	10	5	36	15	42%
1995 (H7)	7	3	6	3	13	5	6	2	32	13	41%
1996 (H8)	3	1	6	1	22	8	17	10	48	20	42%
1997 (H9)	6	2	9	4	19	3	19	7	53	16	30%
1998 (H10)	5	0	11	4	17	4	11	4	44	12	27%
1999 (H11)	7	3	8	4	16	10	11	6	42	23	55%
2000 (H12)	9	3	4	2	15	8	7	4	35	17	49%
2001 (H13)	3	2	8	5	14	5	8	1	33	13	39%
2002 (H14)	8	3	8	5	12	4	7	2	35	14	40%
2003 (H15)	13	2	7	4	9	7	4	1	33	14	42%
2004 (H16)	17	4	22	9	15	7	18	2	72	22	31%
2005 (H17)	32	5	22	5	15	6	20	11	89	27	30%
2006 (H18)	24	3	16	3	21	4	21	5	82	15	18%
2007 (H19)	20	7	9	3	16	8	20	8	65	26	40%
2008 (H20)	8	2	13	9	5	3	5	4	31	18	58%
2009 (H21)	9	3	8	8	11	11	13	8	41	30	73%
2010 (H22)	1	0	10	6	8	6	7	4	26	16	62%
2011 (H23)	9	2	12	8	9	7	4	3	34	20	59%
2012 (H24)	1	0	11	8	7	3	4	2	23	13	57%
合計	201	50	201	96	274	115	217	89	893	350	39%
%	25%		48%		42%		41%		39%		

* 経験者数には、正規教員、臨時的任用職員、非常勤職員(講師)を含む。

* 赴任先の学校種は、小学校、中学校、高等学校を含む。

* 経験者数は、資格教育課程支援室(旧 教職課程指導室)に本人から連絡のあった数を示す。

* 本人から連絡のあった時点でデータを更新している。